

## 17 バドミントン

### 事故防止のための5カ条

- 1 ポール（支柱）、ネットの安全管理とともに、使用後のシャトルの整理を行う。
- 2 コートに入る人数や床に落ちたシャトルの取扱いなど、安全な練習環境に心がける。
- 3 当日の天候に留意し、定期的な換気を心がける。
- 4 外気を遮断した中での激しい活動となるため、選手の健康状態に配慮するとともに、個々で必要に応じ休息をとるなど、自己管理能力を育てる。
- 5 靭帯損傷や熱中症などの傷害に陥りやすいことから緊急時の連絡体制を整える。

### 日頃の練習や競技会に潜む危険因子

#### 1 施設・設備・用具について

- 支柱の持ち運びの際、周囲の者にぶつける。
- 支柱にネットを付け外す際、支柱の金具に指を挟んだり、飛び出した金具で顔面を負傷したりする。
- コート周辺の障害物（ネットの紐や防球ネット・剥がれたラインテープ等）による事故が起こる。
- シューズやラケットなどの用具の劣化やひび、歪み、グリップの老朽化などによる事故が起こる。

#### 2 活動について

- 活動前の準備運動や使用部位（特に足首、膝、肩を入念に行う）のストレッチを怠ることで、スポーツ障害の危険性がある。
- 床の汚れ、コート上に落ちた汗や水、折れたシャトルの羽によって滑ったりする事故が起こる。
- 汗のためにグリップが滑り、ラケットが手から離れて（飛んで）しまう危険性がある。
- 選手が複数コートにいるときに選手同士の接触や振ったラケットに接触、後衛と打球、線審とプレーヤーとの接触による事故が起こる。○ 不十分な間隔での素振り練習等による事故が起こる。
- 審判台の昇降の際に、足を踏み外してしまう危険性がある。

#### 3 気象状況について

- 閉めきった室内での温度上昇、激しい活動や、水分不足による熱中症の危険性がある。
- 気温や体温の急激な変化により体調不良を起こす危険性がある。



### 事故防止のための安全対策

- 1 日ごろから活動場所の安全確認を行うとともに、施設や用具の危険性やラケットなど用具の使用方法について、安全指導を行う必要がある。施設の不備による危険箇所については、事前に説明することが必要である。また、使用する用具の点検を各自で行わせる。
- 2 足首、膝、腰、肩、肘、手首など、関節部に過度の負担がかかる競技であることを理解させ、日ごろから使用箇所の十分なストレッチや筋力アップについても指導する。
- 3 練習（試合）中においては、コート内外の障害物（ラケット、シャトル、シャトルの折れた羽等）について、十分に注意させ、日ごろから整理整頓に努めさせる。
- 4 閉めきった室内で長時間にわたり、高温・多湿の状況下で活動することとなることから、こまめな休息と定期的な換気、水分補給について各自で行わせるよう指導する。また、体調の管理については、自己管理ができるよう指導する必要がある。
- 5 救急体制を整える。
  - 事故に備えて、医療機関との連携を図り、校内の救急体制を整備する。また、保護者との連絡体制を整備する。また、応急手当の方法について指導者・選手ともに理解しておく必要がある。
  - テーピングや医薬品、氷などをすぐに使用できるように準備しておく。
  - 日ごろから生徒自ら危険予測、回避する力を身に付けるよう指導するとともに、指導者も効果的かつ安全な活動方法についての指導力向上に努める。
  - 大会では、怪我の対応マニュアルに従い、本部が的確な判断をするとともに、顧問、会場担当とともに対応にあたる。